

令和 6 年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東中学校	校 長	谷川 清二	生徒指導主事	山下 有実
取組事例名	『やってみたからはじめよう ～SSTを通して～』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
自校では不登校生徒の増加が課題となっており、その原因は学習不振や人間関係の不和、発達特性等多岐にわたっている。しかし、共通点としてすべての土台となっているのは「人と関わる力」ではないかと考えた。そこで、SST の授業を通して生徒とともに考え、日常生活につなげていくことをねらいとしている。	共感的人間関係や自己有用感・自己肯定感の向上を図り、課題の解決に向けて自分で考え・判断し、行動できる生徒を育てる。 また、認め合い、高め合える集団をつくり、授業や行事等を生徒主体でつくりことができる生徒を育てる。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫								
◎生徒の実態にあった SST の授業を検討・実施 SST 年間実施計画（4 月） 研究授業・校内研修（6 月） SST 授業の実施（8 月～） 各学年の授業（SST）実施予定 <table><tr><th></th><th>1 学年</th><th>2 学年</th><th>3 学年</th></tr><tr><td>『社会性と情動の学習（SEL-8S）の進め方』（小泉令三/山田洋平著）を参考にした授業を行い、実生活につながる人間関係能力や社会的能力を育てる。</td><td>友達が怒っちゃった？ 10月 冷静に伝えよう 11月</td><td>顔の見えないコミュニケーション 10月 わかりやすく伝えよう 12月</td><td>初対面での話し方 8月 ストレスマネジメント 8月</td></tr></table> 1年生と仲直りして、部活を一緒に頑張りたい …どうしたらいい？ 他の人に相談 ◎生徒の「やってみよう」や「やってみた」を共有		1 学年	2 学年	3 学年	『社会性と情動の学習（SEL-8S）の進め方』（小泉令三/山田洋平著）を参考にした授業を行い、実生活につながる人間関係能力や社会的能力を育てる。	友達が怒っちゃった？ 10月 冷静に伝えよう 11月	顔の見えないコミュニケーション 10月 わかりやすく伝えよう 12月	初対面での話し方 8月 ストレスマネジメント 8月	生徒にめあてをもたせるために 生徒の実態や課題を教員間で共有し、実態に寄せた事例を設定する。また、生徒が主体的に考えられる発問や構成、実施時期を学年の教員で検討した。 生徒の意欲を高めるために 生徒が主体的に考えることができる SST の授業づくりを心がけた。 全校で、行事前には「やってみよう」ということを共有したり、目標に向かって努力しようとする思いを共有したりする掲示物を作成し、可視化した。 生徒の頑張りを認め、価値付けるために 行事や学期の節目では、それぞれが「やってみたこと」や「素晴らしいと思う場面」を共有できる掲示物を作成した。 生徒会役員が中心となり、普段自分の周りで頑張っている人にスポットを当てたお昼の放送「スマイルラジオ（通称：スマラジ）」を実施した。
	1 学年	2 学年	3 学年						
『社会性と情動の学習（SEL-8S）の進め方』（小泉令三/山田洋平著）を参考にした授業を行い、実生活につながる人間関係能力や社会的能力を育てる。	友達が怒っちゃった？ 10月 冷静に伝えよう 11月	顔の見えないコミュニケーション 10月 わかりやすく伝えよう 12月	初対面での話し方 8月 ストレスマネジメント 8月						



3 成果と課題

◎生徒の学校生活アンケートで①「自分にはいいところがある」・②「自分のことはまわりの人から認められている」に対する肯定的回答がそれぞれ 1 ポイントずつ上がった。 （① 1 学期 86%→2 学期 87%、② 1 学期 83%→84%） ●1 小 1 中の特性を生かし、小中一貫の視点で小中連携を行い、9 年間を通した SST の実施と心の育成を行っていく必要がある。
